

第1回太子町総合計画審議会概要

日 時：令和2年7月28日（火） 午前10時～午前11時30分

場 所：庁舎1階 町立万葉ホール

議 題

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 総合計画審議会委員委嘱
- 4 委員紹介
- 5 議事
 - (1) 会長・副会長の選出について
 - (2) 諮問（後期基本計画（案））
 - (3) 第5次総合計画（後期基本計画）策定方針（案）について
 - (4) 後期基本計画住民アンケート調査（案）について
 - (5) その他
- 6 閉会

《審議会概要》

1 開会

総務部長による挨拶。

2 町長挨拶

町長による挨拶。

3 総合計画審議会委員委嘱

総合計画審議会委員の委嘱を行った。

4 委員紹介

事務局により各委員の紹介を行った。

5 議事

(1) 会長・副会長の選出について

吉川委員が会長に、藤原委員が副会長に選出された。

(2) 諮問（後期基本計画（案））

町長より会長へ後期基本計画（案）について諮問を行った。

(3) 第5次総合計画（後期基本計画）策定方針（案）について

事務局より資料4・5に基づいて説明（説明内容、省略）

吉川会長 委員の皆さんより何か質問はあるか。

西田委員 現計画を立てるときにも携わっており、今回は見直しの時期を迎えた。この4月に町長が替わったが、所信表明はこれまで第3章に示されている分野別施策に沿ってされていた。今回6月の所信表明では、この柱だてはなくなったが、総合計画自体の柱だては変わらずに進んでいるのか。

事務局 基本構想は今回見直すことになっていない。あくまで基本計画の後期について議論・審議してもらう。

中村委員 町長の挨拶でも、従来の計画を検証すると述べており、資料4でも「具体的な取組」の中で、前期計画を検証するものとなっている。従来の計画をしっかりと検証しないで、その上に新しい計画を実施しても粗雑なものになってしまう。過去のものをしっかりと検証した上に、新しい計画を立てるべきと思っているので、分析・検証をどういった形で行うのかを聞きたい。

事務局 評価については、住民アンケート調査の形で実施したいと考えている。また、基本計画においては指標を設けているので、現状と比較しつつ評価を行っていく。今後のスケジュールでも示したが、第2回審議会にて評価の経過も含めて報告したいと考えている。

吉川会長 5年前にこの計画を作成したが、当時、国が地方創生の計画を進めようとしていた。それと同時並行で進んできており、今回の後期計画ではそれを入れていくものとしているが、その点について説明をお願いしたい。

事務局 総合戦略は総合計画より1年早く、平成27年から開始されている。この計画期間を1年延長し、令和3年からの総合計画後期基本計画と期間を合わせるものとし、かつ構成案で示したとおり、総合計画の第2章にて重点プロジェクトという形で、新たに総合戦略を位置づけていくものとしている。これについても指標を設定し、内容について精査・検証を実施し、後期計画との一体化を図っていくとい

う構成案計画としている。

角田委員 資料4の4ページの推進体制にあるとおり、新たに審議会に産業部門として商工会、金融部門としてJAを追加して、しっかり位置づけをしてもらい、ありがたく思っている。

基本理念としてまちづくりの目標があると思うが、この会議は目標に向けて、まちの大きな舵を取るもの。こういう大事な会議であり、そこにおいて高齢化という大変大きな問題が立ちはだかつており、これを何とかしないといけない。自分は仕事で困難に際したときは、視点を様々に変えて物事を見るという発想をする。それから一度原点に立ち返って考える。高齢化問題については、今の中学生・高校生をターゲットとし、ここに焦点を当てたらよいと考えている。なぜこのように考えたかという、以前商店街に池があり、それをコンクリートで埋めてきれいにしたら、そこで中学生や高校生がスケートボードで遊ぶようになった。彼らはきちんとルールを守って遊んでいたが、町内の人が文句を言うようになってしまった。これはかわいそうなことだと思った。そこで彼らにスポーツをする場所を与えてあげて、子どもたちを健全に成長させてあげたら、社会人になったときに、そのうちの何割かでも太子町に住み続けてくれるのではないかと考えた。そういう対策を取ったら、また次の時代のために、彼らは役に立ってくれるのではないか。最近太子町役場を退職した人に聞いた話だが、息子が2人いるにもかかわらず、2人とも町を出てしまっているという。太子町の職員の息子だから、太子町に関心があるかと思っただが、やはり子どもは出てしまっており、このままでは高齢化の進展を抑えることはできないのではないか。そこでスポーツを通じて子どもたちに活動できる場所を与え、彼らと接点をたくさん持つことで、将来大人になったときに、太子町に帰ってきてくれるのではないか。高齢化問題については、そういう戦略も必要ではないかと強く感じている。

小路委員 カインズ・ラムーのような大きな商業施設が太子町に来ているので、商工会としては危機を感じている。大手が来たら小規模の商業はダメになってしまう。それから観光業界については、前回の総合計画の中にも入れられているが、その後町として力を入れてもらっていない。太子町は日本遺産に認定されており、また堺のほうも世界遺産に認定されたので、そちらとも連携して、今後は太子町にも多くの観光客に来てもらえるような施策も考えてもらいたい。

金谷委員 町会の入会率が5割になっている。半分の住民が入っていない。総合計画にも「支え合い、安心して暮らせるまちづくり」「みんなで歩む協働のまちづくり」といったことがまちづくりの目標になっている。今まさにこれを実現する機会だ

と思うので、新規の方には町会に入ってもらい、離脱された方には戻ってもらうような対策をとってもらいたい。

吉川会長 社会福祉協議会の会員も相当減ってきているとも言われている。太子町はどうか。

田中委員 第5次総合計画は、良いことばかりを並べている。10年一区切りというが、時代は相当進んでいる。今はコロナの問題が出ているし、後期高齢者問題や少子化、人口減少問題が非常に目立ってきている。人口減少により、住民のふれ合いが大変希薄になってきている。そうした背景が町会の入会率の減少につながっていると思う。こうした時代の流れに総合計画が乗っていけるかが重要である。総合計画が出た後に、これまでと違う問題が出てきてしまい、そちらが優先される事態も珍しくないが、一番の問題は少子高齢化なので、そこに向かってよく検討しよい判断をしてもらいたいと思う。

斧田委員 総合計画は、これを太子町の一番の幹とし、これに合わせてそれぞれの分野に関する計画に派生していくものである。今回、この見直しにあたって、その評価や見直し、各分野のところまでしっかり波及していくように、ぜひともお願いしたい。

中村委員 高齢者の問題も含めて、全般的なお願いをしたい。太子町にラムー・カインズができ、ここには奈良から多くのお客が来ている。これは富田林に企業団地があるためである。そうしたことから見ると、先ほど核家族化、少子高齢化が進んでいる問題が挙げられていたが、太子町内にもっと雇用の場を設ける必要があると言える。また、町長も依存財源でなく自前の財源の必要性を述べていたが、それには企業団地を開発していくべきだと考えている。太子 IC 付近の開発も頓挫した状態であるが、そうしたところを改めて見直し、太子町に雇用の場を設け、それにより人口増加を実現し、また職住近接で住民が生活に余裕ができれば、町会や自治会への加入につながるのではないかと。住民に話を聞くと、皆そこまで生活に余裕がないのが現状と言える。そこで、今回の計画には、ぜひ雇用の場の創設について盛り込むことをお願いしたい。

松端委員 人口減少が問題になっているが、小さな町や村でも様々な取り組みをしている。例えば、長野県下條村は積極的な少子化対策を行い、出生率も上がり子ども数も増えている。徳島県上勝町は葉っぱビジネスで有名で、高齢者を雇用し、和食に沿える葉っぱを出荷して収益を得ている。また島根県海士町では、町が

100%出資した瞬間冷凍の会社をつくりこれが成功、この他にも様々な施策を打ち出し、町外から人が移り住むようになっていく。太子町も立地条件はよいので、少子化対策をしっかりと行い、子どもを産み育てやすいまちになれるかどうか、まちづくりの決め手になる。兵庫県明石市も人口が増えている。ここは子ども関係の予算を2倍に増やし、子どもを産み育てやすいまちをめざした。2018年に中核市に移行し、これにより児童相談所を設置できるようになった。最近、子ども食堂が注目を浴びているが、明石市は28ある小学校区のすべてに子ども食堂がある。子ども食堂を運営している人はボランティアだが、子どもの様子を見守り、異変を感じたら児童相談所に連絡し、子どものケアも行っている。このようにきめ細かな取り組みをしている。

太子町も端的に子育てをしやすいまちに生まれ変わるかどうか急務になっており、具体的にどのような策を打ち出せるかが問われる。若者は働きやすいところに出ていってしまうので、働きやすさ、アクセスのよさは重要になる。

一方で、これからはテレワークがより一層進んでいくと思われる。和歌山県白浜町ではIT関係の会社が集中して入ってきており、活性化しつつある。IT関係の会社は基本的にテレワークで仕事ができるが、ここには空港があり東京へアクセスできることが売りになっている。太子町であれば、関西圏にアクセスが容易であり、住環境も優れていることが売りになるだろう。

長野県の下條村では、若者のために住宅を整備し、相場の半額くらいで賃貸を提供し、また戸建て住宅も比較的安価に提供している。そこには町が資金を出し、それを利用するためには、自治会の加入や地域活動への参加が条件となっており、これにより定住促進を図っている。

こうして全国の自治体を見ていくと、活性化しているかどうかは、若い世代が来るかどうか、それと働く場を確保できるかどうかだと言える。

今後は人口減少傾向で、働き方も変わっていく。その中では、何か大きなものを誘致するよりは、今あるものを上手に活用しながらいかに付加価値を生み出せるかが重要になるだろう。太子町はアクセスもよいので、近隣の人たちが子どもを産み育てるときに、太子町を選択したくなるようなまちになれるかどうかポイントになるだろう。

竹谷委員 バスが走り出して大変便利さを感じている。この会議の委員として参加するにあたり文書を出すように言われ、そこに書いたことは、太子町はこれから大きく変わるということ。自分自身40年近く市内に勤めていて、町の中のことはほとんど知らなかった。磯長台に住んでいて、上ノ太子駅から電車に乗って仕事に行き、晩遅くに帰ってくるという生活。それが、バスが走るようになって、町の中が本当によくわかるようになった。自分は70歳以上なので、バスの割引券を40枚もら

ったが、もうすべて使い切り、新しい冊子をもらった。ほとんどすべてのバスに乗った。高校生もこれからはバスに乗って通学できるし、一般の住民もバス通勤が増えてきて、さらによいまちになっていくと思う。

次に、コロナの問題だが、太子町にも大きな波が押し寄せてくると思う。その準備をぜひしてほしい。どういう人を対象に抗原検査を行うかについても、ぜひ検討し、実施して行ってほしい。医療に携わっている人、介護や障害福祉、保育園の保育士、また小中学校の教育現場に携わっている人などへ検査を行っていくことが、非常に重要になってくる。費用がかかるだろうが、ぜひ準備をしてほしい。

3点目。この総合計画を読んでいたら、太子町は自然災害のないまちとなっていた。しかし、自分が退職して町の中を歩いたら、非常に大きな災害が起きていることがわかった。ただ、町民に知らされていないだけである。例えば、ここ2～3年でも、二上山で登り道の途中で大きな地すべりが起こっていた。平石の方へ上って行くところでも、大きな土砂くずれが起こっていた。先日は、大道で宅地の土が落ちて通行止めになっていた。それ以外にも豪雨が起ると避難指示が出ているところがある。そういうところは、温暖化の影響による非常に激しい豪雨がきたら、潰れてしまう可能性があると思うので、防災のあり方について、太子町でも早めに検討してほしい。

4点目。学校の問題について。先日、熊本の球磨川から大規模な洪水が起こったときに、住民が大勢避難した。その避難所で、行政は避難者1人につき4㎡を確保した。このように避難においてもコロナ対策が求められているが、太子町の小中学校の教室では、子どもたちはどれくらいの密度で過ごしているか。現状の教室がどうなっているのか、自分にはわからないが、ただ、わかるのは教室は64㎡と決められているので、1人4㎡を確保しようとする、40人学級は無理だということ。つまり、学校では密の状態で過ごさざるを得なくなっている。これを一気に変えることは当然できないと思うが、教育委員会は対応を真剣に考えているだろうか。学校のコロナ対策について、ぜひ教育委員会でも検討してもらいたい。

5点目。先ほど、委員から池の跡地でスケードボードをしていた子どもたちの話があり、今の子どもたちとの接点をもっと持つべきという意見が述べられた。もっともなことだと思う。池の埋め立て工事は長期間にわたったが、ようやくコンクリートが敷かれてきれいになると、すぐに高校生がスケードボードをやり始めた。目ざとくよいところを見つけたものだと思って、声を掛けたこともあるが、しばらくすると、そこにバラスが撒かれ、スケードボードもできなくなってしまった。そんな子どもたちに、一緒に太子町でまちづくりをしていこうと言っても、説得力があるだろうか。青年の意見や考えが行政に反映されやすいような体制を整備する必要があると思う。それから、子どもたちの居場所となるきちんとした運動施設も必要だろう。グラウンドだけあっても、整備もされず、放置されているだけでは、施設と

して十分なものとは言えないだろう。

今日は初めて審議会に出席し、柱しか述べられなかったが、ぜひ町には真剣に取り組んでもらいたい。

吉川会長 JA 大阪南が羽曳野の道の駅で産直を展開している。太子の道の駅も JA でサポートする考えはないか。

北委員 河内長野でも展開しているが、これについては、農協の戦略の柱で、市と協力して進めてきた。個人的な意見だが、農協はこれからも絶対に必要なものであり、農協の職員としても、農業をまとめていかなければならないと思っている。ただ、今のところ具体的な施策を明確に出せていない。何か大きいものを打ち出すというよりは、農業の産業人口が減ってきているので、例えば若い人にマッチングの形で入ってきてもらえるようなまちづくりに貢献できれば幸いだと考えている。太子町の道の駅に関しては、ここでは何とも言い難いので、一度持ち帰らせてもらいたい。

浅野委員 少子化の問題について。保健センターが行っている子育て世代の若い母親へのアンケートでは、センターが実施している施策には満足しているが、子どもたちを遊ばせる環境が整っていないことも不安要素として挙がっている。そこで、子どもが安全に遊べる場所、あるいは他の地域からも来てもらい体験的なこともできるような取り組みを考えていければと思っている。

森委員 少子化問題について。この対策としてよく言われるのが、どうしたら子どもが育ちやすい環境を整えられるかということだが、今の若い人を見てみると、結婚していない人が多いような気がする。最近では婚活という言葉も出てきたが、そもそも男女が知り合うきっかけがないという話もよく聞く。そこで信用できる公の場で、何か知り合うきっかけの提供ができればと常々思っている。

松井委員 保育所の入所の現状について。ここ数年、未満児（0、1、2歳児）の入所率が上がっている。それだけ女性の社会進出、就労が増えているのだと思う。今後、少子高齢化は避けられず、女性の労働力は社会的にますます求められていくので、継続して未満児の入所率は上がっていくだろう。感覚的なことだが、一人っ子よりも3人兄弟のほうが入所している人数が多い。つまり、子どもを持つ家庭で見ると、一家庭あたりでたくさん子どもを産んでいるのではないかと感じている。ということは、太子町は、地域として、子どもを産み育てやすい環境にあると言えるだろう。こういうベースがあるので、取り組み次第では、他の地域から呼び込むことができるのではないかと思っている。

それから、空き家問題がある。自分は春日に住んでいるが、空き家が増えている。また、高齢者夫婦、高齢者単身世帯も増えている。このままでは10年後には人が住んでいないような状態になりかねない。地域に竹内街道も通っているので、竹内街道を観光資源として空き家も活用しつつ、人通りのある地域になるように活性化させていかなければならないと思っている。

(4) 後期基本計画住民アンケート調査(案)について

事務局より資料6に基づいて説明(説明内容、省略)

西田委員 アンケート対象が1,000人とのことだが、1,000人でアンケートとして成り立つのか。前回は1,000人にアンケートをとっているが、回収率は半分弱で490だった。今回、できるだけ回収率を上げるために、調査期間を延ばすなど、何か対策は考えていないのか。それとも前回並みでよいと考えているのか。

事務局 太子町は人口が約13,500人なので、1,000人調査で回収率が37%以上であれば、統計指標上は有効なものとなっている。回収率については、様々に周知を図っていき、できるだけ多くの住民に回答してもらえるように努めていく。

西田委員 無作為の中にも、年代ごとに枠を設けているのか。それともまったくの無作為か。

事務局 無作為抽出をすることによって、年齢層も本町の人口を反映した形で抽出できるものとなっている。全体的に本町の現状が反映された形で抽出されることになる。

吉川会長 最後の自由記述は、前回はどれくらいの回答があったか。

事務局 前回の自由記述欄は、回収とほぼ同数の記載があった。すなわち、返送されたアンケートのほぼすべてにおいて、自由記述欄に何等かの記載があった。

吉川会長 そこに書かれる意見も大事だと思うので、今後の策定作業において考慮してもらったらよいと思う。

最後に、全般的なことでもよいので、何か意見はあるか。

平井委員 総合計画をすべて読んでみた。62ページを見ると「安心・安全を確保します」とあったが、少し足りないと思う。ここに災害時の話が出てくるが、災害時の要援

護者の個別支援計画のような考えが書かれていないので、そうした観点も入れてはどうか。

(5) その他

事務局 事務局として特に案件はなし。次回、第2回審議会は10月中頃を予定している。

吉川会長 皆さんの協力により、様々な角度からの意見を出してもらえた。今日の会議を踏まえ、第2回に向けて、事務局にはさらに充実した内容を付加してもらいたいと思う。これで第1回目の審議회를終了する。

以上